

深耶馬溪の 植物群落(樹林)

自然界の植物は気温や雨量など環境の影響を受けて、それぞれが適地に生育し群落を形成しています。深耶馬溪地域は深い渓谷と岩峰のそびえる尾根が複雑な地形をつくり、気温差や湿度の差、日射量の差などが大きく、地域の中でも環境条件が異なっています。植物たちはそれぞれの環境に適応して様々な群落をつくっています。



コナラ群落

アカマツ群落と同様、乾燥した岩峰部分にみられ、耶馬溪を代表する群落です。林内に生育するヤマウルシ、コバノガマズミ、アカメガシワなどの紅葉は秋の観光客の目をひきます。



ウラジログアシーサカキ群落

標高400～600mの丘陵帯を代表する群落です。樹林の規模は小さくウラジログアシ、ツクバネガシ、ホソバタブなどの常緑広葉樹が高木となっています。



ツガ・ハイノキ群落

通常標高600～800m付近にみられるが、深耶馬溪では500m以下の峰の中腹にみられます。林内にはネジキ、アセビ、コバノミツバツツジなどが生育しています。



アラカシ群落

溪谷から少し離れた台地上の浅い谷斜面にみられ、ヒサカキ、ネズミモチ、シシガシラなどが生育しています。かつては薪炭材供給のために何度も伐採された群落です。



アカマツ群落

耶馬溪の代表的景観をつくる群落で、岩峰の上部にみられます。林内にはクロキやヒサカキなど常緑樹が多く、林床にはヤマツツジも生育しています。



コジイ群落

コジイの抱ヤブツバキ、ヒサカキなどの常緑広葉樹が生育し、低地から連続する群落の上限部にあたります。シイモチの生育が特徴的です。



ホソバタブ群落

溪谷の渓流沿いにみられる群落で、イタヤカエデやイロハモミジ、ケヤキ、ミズキ、キジノオシダ、ジュウモンジシダ、サツマイナモリなど溪谷特有の植物が生育しています。